



ジャッピー来臨 (日本, 2006, カラー, 7分)

Advent of Jappy

Antenna
 あらすじ：日本の伝統保存のために作られた架空のテーマパーク「ヤマトピア」。そのマスコット、ジャッピーは、「ヤマトピア」が廃墟となり、地震で周囲から隔絶された陸の孤島と化す中、神格化されて崇め奉られている…。
 Antenna：京都を拠点に活動するアーティストグループ。メンバー（本作品制作当時）：田中秀行、岡寛志、矢津吉隆、市村恵介、古川きくみ。
 http://antennakyo.com
 主な発表歴：2002年京都市立芸術大学にて短編映画「カミーユ」を発表。2003年「New Generation 3」海岸通ギャラリー CASO (大阪)。2004年那覇商人塾(沖縄)にて「Kyo-Ryu Art Project」。2005年「第1回アジア海洋映画祭イン幕張」で学生短編ビデオ部門グランプリ受賞。同年「仙台アートビジュアル2005」佳作。「DOT MOV Festival 2005」出展。2006年「eAT 金沢 '06」動画部門 特別賞受賞(石川)、第2回現代美術コンクール受賞作家展「大阪府立現代美術センター(大阪)」、「L'image movement Sarajevo-Kyoto」Galerija 10m²(サラエボ)、韓国・釜山市立美術館の「Video festival in Pusan」に出展。



フィッシュ・スープ (ドイツ, 2006, カラー, 10分)

Fish Soup

ウル・ブラウン & アレクセイ・ツェルニー Ulu Braun & Alexej Tchernyi
 あらすじ：イタリアのとある浜辺の町の日常が、人間の自然環境への無神経な破壊とともに描かれる。汚染された海、死んだ魚…。しかし住民たちは、自分たちの犯した自然破壊を憂うことなく、“魚のスープ”と化した海水を飲んでいる…。
 ウル・ブラウン：1976年ドイツ生まれ。1996年～2000年ウィーン応用芸術大学、2000年～2006年ドイツ・ポツダム・コンラート・ヴォルフ映画・テレビ大学にて学ぶ。2005年「Videonale 10」に出展。同年ザルツブルクのKunstvereinの「Freies Fernsehen」展に出展。2006年ベルリンで「40Jahrevideokunst.de」に出展。2007年ボンで行われた第18回ドイツ連邦芸術学生コンクールに参加。ベルリン在住。www.ulubraun.de
 アレクセイ・ツェルニー：1976年ウクライナ・ハリコフ生まれ。1996年～2000年カッセル芸術大学、2000年よりポツダムのコンラート・ヴォルフ映画・テレビ大学に学ぶ。2002年ベルリンのBerlinische Galerieの「Hotel-B」展に参加。2006年ベルリン芸術アカデミーの「Probelauf 12」展に参加。



跳馬を跳ぶひと (ドイツ, 2006, カラー, 4分53秒)

Bokker

クリスティエーネ・ド・ラ・ガレンヌ Christine de la Garenne
 あらすじ：作者の北京滞在中のプロジェクト「Beijing Case」の一部として生まれた作品。跳馬を跳ぶ中国人少年の芸術的なまでの身体制御、手の動きから生み出されるリズムカルな音や繰り返される呼吸音、頭や足の回転が、均整のとれた映像バランスを生み出す…。
 クリスティエーネ・ド・ラ・ガレンヌ：1973年ドイツ・カールスルーエ生まれ。1994年～2000年カールスルーエ造形芸術アカデミーに、2000年～2002年カールスルーエ造形大学に学ぶ。ベルリン在住。
 www.christinedelagarenne.de
 主な発表歴：2004年イタリア・ジェノバのクローチェ荘美術館にて「Vogliamo Tutto」展。同年ミラノのGaleria Neonにて、「Sous le Soleil Exactement」展。

2005年ベルリンのマーティン・グロピウスハウにて、「Fokus Istanbul」展。2006年ハイデルベルクのForum für Kunstにて「Haze over」展。同年カールスルーエのZKMにて、「Total Stadt, Beijing Case」展。ハンブルクのクンストハレにて、「Parcours. Bilder vom Orient」展、ニューヨークのチェルシー・アート美術館にて「Traveling Light, Nothing to Lose」展。



360°注意 (リトアニア / ドイツ, 2004, カラー, 3分17秒)

Rücksicht / heed 360°

パトリツィア・ギリテ Patricija Gilyte
 あらすじ：地平線まで広がる海岸風景を背景に、布に包まれた彫刻像らしきものが置かれている。海の風がこの変形するイキモノのかたちをつくり、動かしている。じっと見つめると、初めて、この変容するモノの後ろには人が隠れていることに気がつく…。
 パトリツィア・ギリテ：1972年リトアニア・カウナス生まれ。1991年～1996年リトアニア・ピリニウス美術アカデミー／カウナス美術学校に学ぶ。1997年～2004年ミュンヘン芸術アカデミーに学ぶ。2006年より、リトアニア・ピリニウス美術アカデミー／カウナス美術学校の客員講師。
 主な発表歴：2005年ドイツ・ダルムシュタットのクンスト・ビエンナーレ参加。同年モンペリエのL'espace culturel de L'ufm 出展。2006年カウナス・アート・ビエンナーレ参加。同年フランス・ニームの第5回コンテンポラリー・アート・ビエンナーレに参加、ドイツ・ミュンヘンのHaus der Kunstに出展。



ゆがんでいく顔 (中国, 2005, カラー, 4分)

Losing my Face

グァンユン・リュー Guangyun Liu
 あらすじ：カメラが、アーティストを下から見上げている。頭の毛が天井から結ばれ、突然、ザイルにつながれた振り子のように頭が動き出す。ぼんやりと映った顔は、どんどん新たに流動的な形にねじれていく…。
 グァンユン・リュー：1962年中国・済南生まれ。北京の中央美術学院に学ぶ。現在、上海およびドイツ・マインツ在住。
 主な発表歴：2002年上海美術館の「Metaphysics 2002」展に参加。2003年ニューヨークのフュージョン・アート・ミュージアムにて「Transfusion」展。2005年ポーランドのボズナンおよびドイツ・ハノーバーのファウスト美術館にて「Zurück zur Zukunft - Shanghai Arts」展。イギリスのダーリントンにて「Closing Time」展。2006年第9回ハバナ・ビエンナーレ参加。上海 Eastlink Galerieに出展。ソウルのWoo Lim Galerieにて「In Between」展。



ブラック・ミュージアム (ドイツ, 2006, カラー, 4分52秒)

The Black Museum

マティアス・マイヤー Matthias Meyer
 あらすじ：美術館の舞台裏で働く人々を追ったドキュメンタリー映画「パリ・ルーヴル美術館の秘密」(監督：ニコラス・フィリペール)をもとに作られた作品。左には、絵の入っていない金縁の額、右には真っ黒な絵がかかった金縁の額が置かれている。モノトーンさと黒い絵のもたらす空虚さによって、美術館スタッフの動きが無意味であるかのように見えてくる…。
 マティアス・マイヤー：1972年ドイツ・ハーメルン生まれ。1996年～2001年ドイツ・キールのムテジウス美術大学に、1999年～2000年ウィーン造形芸術アカデミーに学ぶ。ハンブルク在住。



主な発表歴：2000年ニューヨークのApex Artにて「Block」展。2001年キールのPrima Kunstにて「Happy Ends」展。2002年ベルリンのシュレスビヒ＝ホルシュタイン州代表部にて「Jet Set」展。2004年ベルリンのBergstübl Projekteにて「Bush of ghosts」展。同年キールのクンストハレに出展。2005年ウィーンのキュンストラーハウスにて「Die Ritter der Tafelrunde」展。2006年ベルリン・ビエンナーレに出展。2007年デュッセルドルフのKunstvereinにて「Die Wörter, die Dinge」展。



たとえ彼女が犯罪者だったとしても…(フランス, 2006, 白黒・カラー, 10分)

Even if she had been a criminal...

ジャン＝ガブリエル・ペリオ Jean＝Gabriel Périot
 あらすじ：第2次世界大戦中にドイツ人男性との関係をうわさされたフランス人女性達の公の場での処罰と屈辱をテーマにした作品。戦争前夜から1944年のパリ解放とドイツ軍のフランス撤退までが時間を追って描かれる。解放を祝う喜びが、報復へと変わり、まるで第三帝国での迫害のように、公の場で女性達が晒し者にされる…。
 ジャン＝ガブリエル・ペリオ：1974年フランス生まれ。1997年パリ大学に学ぶ。フランス・トゥール在住。www.jgperiot.net
 主な発表歴：2004年「Strip-Tease」をトゥールのCCC、ブカレスト・ビエンナーレに出展。2005年ムーランにて「The Aftermath of the Disaster」展、シドニーのPhatspace 国際ビデオ展。同年ベオグラードのギャラリーで「Beograd naked I sad」展。2006年モントリオールのビデオアートと電子芸術の国際展「Invisible City」。2007年ロンドンのフレッド美術館での「Paranoia」展、同年原爆ドームの歴史を描いたドキュメンタリー「20万の亡霊」で文化庁メディア芸術祭アート部門大賞。



戦車 (ドイツ, 2005, カラー, 2分35秒)

Panzer

ニコ・ロイッケ Nico Roicke
 あらすじ：本作品では、はじめ用途がはっきり決まっていたわけではない量産品の開発とマーケティングの様子が描かれている。その製品は、「家族全員のためのパーフェクトな製品」であり、全ての問題の解決策であるとされている。しかし、この製品「戦車」は本来軍事使用されるものであるという我々の認識は、いやおうなしに戦争を思い起こさせる…。
 ニコ・ロイッケ：1979年ドイツ・ポツダム生まれ。2001年～2005年ポツダムのコンラート・ヴォルフ映画・テレビ大学に学ぶ。2002年～2003年ベルリンのラジオ局Radio Einsの音楽編集者。2003年よりJackpot Baby!の共編者。2003年～2005年ドイツ国営放送ARD Digitalの制作アシスタント。2004年～2005年パリ大学に学ぶ。2005年ドイツ・ワイマールのBackup Clip アワード受賞。2005年～2006年ドイチェ・ヴェレ TVのアシスタント。2006年ベルリンのEmergeandsee Short Cup アワード受賞。



カラーバー PAL75%の馬 (スウェーデン, 2005, 1分45分)

75% PAL Bars Horse

ティーナ・ウィルグレン Tina Willgren
 あらすじ：本作品では、通常テレビ放送終了時に映されるカラーバーが取り上げられている。音声に加わると垂直のカラーバーが動き始め、停止するまで、馬のひづめの音に合わせて歩みつつける…。
 ティーナ・ウィルグレン：1972年スウェーデン生まれ。1999年～2005年ストックホルム国立芸術大学に学ぶ。2005年Royal Swedish Academy of fine arts。

23日(Fri)	14:00～16:00	16:00～18:00	18:00～20:00
24日(Sat)	C1	A	B
25日(Sun)	C2	B	

主な発表歴：2003年ストックホルムのArt Academyにて「Show Off」展。2004年ロシア・エカテリンブルクのOut Video Festival参加。同年スウェーデン・マルモのKonsthallにて「Repetition」展。2005年ストックホルムで「What's On」展。2006年ヒューストン、シアトル、コロラド、サンフランシスコ等のIndependent Exposureに出展。同年アテネのビデオアートフェスティバルに参加。



星に願いを (日本, 2004, カラー, 2分22秒)

When I wish upon a Star

山下麻衣 & 小林直人 Mai Yamashita & Naoto Kobayashi
 あらすじ：実際は1秒にも満たない本物の流れ星の映像を、2分間にまで引き延ばし、作者のありとあらゆる願い事が唱えられ重ね合わされた作品。
 山下麻衣：1976年千葉県生まれ。2001年～2004年東京芸術大学大学院美術研究科に学ぶ。ベルリンに在住。http://homepage.mac.com/m_plus_n/
 小林直人：1974年千葉県生まれ。1999年～2002年東京芸術大学大学院美術研究科に学ぶ。ベルリン在住。http://homepage.mac.com/m_plus_n/
 主な発表歴：2002年東京国際フォーラムの「フィリップモリスKKアートアワード2002-The First Move」に出展。2004年「The World is Mine」Hiromi Yoshii Five, 東京。2005年東京芸術大学美術館付属陳列館にて「Rosa! ～あらわになる色」展。2006年ヘルシンキ・キアズマ現代美術館で「ARS 06」展。デンマーク・ヘルニング美術館にて「Indblik」展。ロンドン・ヴィクトリア・アルバート博物館にて「Trans_Vision」展。シンガポール歴史博物館にて「The Peninsula」展。オーストリア・リンツのArs Electronica 参加。ベルリンのTransmediale 参加。



オーダー (ドイツ, 2004, 4分36秒)

Der Auftrag

ヨゼフ・ツェーラー Joseph Zehrer
 あらすじ：画面にはアーティストの顔は映らず、胴から肩までが映っている。だが、そこでフォーカスされるのは、手である。ここでは食事が調理されているわけではなく、主人公の手が調理されているのだ。オイルと香辛料で下ごしらえされ、フランベされ、その炎が消され…。最後に、使った後のナプキンがおかれた皿のみが残る…。
 ヨゼフ・ツェーラー：1954年ドイツ生まれ。1982年～1988年ミュンヘン造形芸術アカデミーに学ぶ。ケルン在住。
 主な発表歴：1997年ハンブルクのDeichtorhallenで「Home Sweet Home」展。1999年ドイツ・ヴォルフスブルク美術館にて「German Open 1999」展。2000年ハンブルクにて「Grässlin Collection」展。同年ウィーンのクンストハレにて「Televisions」展。2003年ハノーバーのKunstvereinにて「MAMAS & PAPAS, Blind Date」展。2004年ブラウンシュヴァイクにて「Braunschweig Parcours」展。ベルリンのクリスチャン・ナーゲル・ギャラリーにて、「Arbeitslose Arbeiten」展。2005年カールスルーエのZKMにて「Lichtkunst aus Kunstlicht」展。2006年ハイルブロンKunstvereinにて「Alte Kamera」展。